

国立市議会議員 ◆ 一人会派《こぶしの木》

上村和子 市議会レポート

こぶしの木 No.49

発行：上村和子事務所 〒186-0002 東京都国立市東3-11-12 ハロ一国立103
tel & fax : 042-580-2780 e-mail : kobusinoki.uemura@nifty.com
ホームページ : http://homepage2.nifty.com/uemura_kazuko/



9月2日から9月議会が始まります。是非傍聴にいっしょしてください。

国立を誰もが安心して暮らせる まちに——4期目も頑張ります

4月24日に行われた市議会議員選挙で、9,255票のご支持をいただき、4回目の当選を果たすことができました。これまでに引き続き、社会的に困難な状況に陥った方々に寄り添いながら、誰もが安心して暮らせる国立のまちを作って行きたいと思えます。

今回の選挙は、私にとって大変厳しい選挙でした。大震災で気分が落ち込み、身体の方にも、風邪を引くは、ギックリ腰で動けなくなるほど、アクシデントが次々と起こりました。もう選挙は無理かと思った時もあり、「私もまた弱者なのだ」と身にしみて実感しました。

しかし、弱者であるとの実感をもった私が、社会的弱者の平和的生存権を懸命に主張することこそが大切なのではないかと思います。また、思うように動けない私に代わって、多くの市民の皆さんが主体的に動いてくださいました。前回の選挙よりも票を減らし

ましたが、いただいた票は、私のような議員が必要だと感じられた方々の、かけがえのない一票の積み重ねだと思えます。

一票をもたない子どもたちや、外国籍の方々も含めて、一人一人の生存権の保障に努力しなければ、思いを新たにしています。

住基ネット接続を主張する市長が誕生

市長選挙では、保守派から推された、住基ネット接続を主張する佐藤一夫さんが、前職の関口博さんと共産党の推した小沢やす子さんを破って当選しました。

私は、住基ネットは簡単に接続してはいけないと思います。国立市には住基ネット切断を支持する市民が多数います。今回の市長選挙でも、関口さんと小沢さんの票を足すと佐藤さんの票を上回ります。住基ネットの接続が市民に支持されたとは、簡単には言えません。

6月議会の一般質問で私の考えを述べ、市長から「12月までに、住基ネット単独条例を、情報公開及び個人情報保護審議員の意見を聞いて作る」「市民の要望があれば市長が説明に行く」等の約束を取り付けました。

議長に阿部さん、私は福祉保険委員会に

5月18日に開かれた臨時議会で、議長には阿部美知子さん（生活者ネット）が、副議長には生方裕一さん（みんなの党）が選ばれました。私は引き続き福祉保険委員会に所属することになりました。福祉保険委員会の委員長選出では私が推薦され、固辞したのですが、皆さんの推薦の意志が強く、委員長職を受けることになりました。

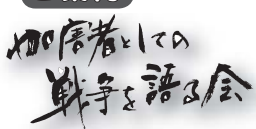
早速、国立市の保育園、認証保育所、家庭福祉員の現状視察を企画し、8月22日に実施します。

副市長に永見さん 教育長に是松さん

副市長選任については、市の企画部長、福祉部長などを務めていた永見理夫さんが14の〇をもらい、同意されました。私は、福祉部長時代の実績と、その財政観（事前のヒアリングで、財政は道具であり、施策が一番。数合わせで財政を考えてはいけないと語っていました）に期待して〇としました。

教育長には、前教育次長の是松昭一さんが、15の〇で同意されました。私は、3月議会での私の一般質問（一中が、不用所持アンケート調査で、生徒に対し、自分以外の生徒の名前を書かせたことは問題ではないかと質問した）のに対する是松さん答弁（アンケートは評価できると回答）など、いくつかの点で問題を感じ、×としました。

ご案内



日中戦争が始まった1931年9月18日の「柳条湖事件」から、今年ちょうど80年になります。そんな節目の今年、会の原点である「九・一八」（柳条湖事件の中国での呼称）から日中戦争、そして21世紀の今、私たちが加害の歴史どう向き合うべき

「柳条湖事件」から80年

戦争を知らない国民のための日中歴史認識

- ◆日時 9月17日(土) 午後1時半～(開場1時)
- ◆場所 くにたち公民館講堂 座室
- ◆講師 笠原十九司さん (都留文科大学名誉教授)
- ◆資料代 500円
- ◆主催・連絡先 加害者としての戦争を語る会 (580-2780)

住基ネット

自治の視点で考えよう！

国立市は2002年8月の一次稼働には参加したものの、議会議決や陳情等、住民の反対の声を受け、同年12月26日、切断に踏み切りました。それから9年間、切断を継続しつつ、総務省へ何回も質問を提出し、独自でも、システムとその運用の安全のための調査研究を進めてきました。

その中で、住基ネットワークは「お金がかかる」「リスクが高い」「責任主体が明確でない」ことが見えってきました。

住基ネットは自治事務

住民基本台帳ネットワークは自治事務であり、地方自治体固有の事務です。

ところが、全国の情報が集まる中央の情報コントロールセンターは、国が民間に依託しており、地方自治体の管理は及びません。

例えば、私の住基ネット上の個人情報私の知らないまま他の自治体で勝手に使われた場合、国立市は責任を負えるのでしょうか。

技術的にも国立市の職員は国立市のシステムは理解

す共通番号制度導入を視野に入れた意見を出していただきたいと思えます。

危険な共通番号制度

共通番号制度が導入されると、銀行や病院でも見られるようになり、病歴や財産等も漏れる可能性が出て来ます。

審議会で条例を

再接続するにあたり、住基ネットのリスクを市長は充分認識し、万が一市外で漏洩等が発覚した場合、調査を求めるとともに、責任を追及し、切断するなど、実施主体の責任を明記した条例を、情報公開及び個人情報審議会の場でつくるべきと議員有志で文書要望し、

最終的には佐藤市長は12月までにはつくと明言しました。

8月15日に開かれる審議会に条例案が出され、その案について意見がかわされます。

私は、審議会には、条例案については、具体的にどのようなものに修正して欲しいと願うと共に、再接続にあたって留意すべき点や、国が住基ネットの拡大版として予定している「税と社会保障との一体化」をめざ

個人が番号で管理され、プライバシーにかかわる他人に知られたくない自己情報のコントロールがきかなくなることはとても恐ろしいと感じます。

システムエンジニアでもある関口前市長は、しくみを知っているからこそ、住基ネットの危なさを主張してきました。先日、「国立のまちの問題を考える会」に関口前市長を招き、この問題について話していただきました。大変わかりやすい説明で、参加された方から、「自分の夫もシステムエンジニアだが、銀行カードもスイカも絶対使わない」という発言がありました。

構造を知っている人はその危なさも知っているはずで、その危なさが知らされず、隠されて「便利・効率的」の面ばかりが強調されていくのはやはり変だと考えます。

中学校教科書採択

歴史・公民は東京書籍に決定！

8月2日、国立市教育委員会による中学校の教科書採択が行われました。約40人の傍聴人が見守るなか4時間半、概ね学校現場の意見を尊重しての教科書に決まりました。

問題多い育鵬社教科書

育鵬社の公民の教科書には、「国家と私」の項で、「原発の開発計画がもち上がった市は（国家規模の政策について）どのように考えればよいか」との設問があり、結論は、「市民と原発の共存に向けて全力で取り組む」のみです。

全教員が関わった採択

嵐山教育委員が「清水書院

同社の歴史教科書に対して審議会の意見は、「特徴的な記述が多く、小学校との関連が図られにくい。世界史の内容は他社に比べると薄く、世界との関連性は理解しにくい」とあり、現場の冷静な判断に合点がきました。

育鵬社を採択した東京都中高一貫校や武蔵村山市などでは、このような冷静な意見が出なかつたのでしょうか。学校現場の声を聞かずに決めたのではないだろうかと思えました。

の公民は紙が薄いと言われるが、作り手の情熱や思いが伝わって愛しい。他社の公民では、国民の8割が支持していない今後どうなるかわからない裁判員制度を「定着」と表現しているが教科書としてどうか」と発言され、さすが、ペンの仕事をしている人だなと思印象に残りました。

中村委員は、子どもの権利条約の記載について各社の違いを指摘し、聞いていて勉強になりました。

今回国立市では、全ての教員が関わったと聞きました。やはり授業する教員が真剣に研究した教科書が選ばれていくような教科書採択が一番良い、自ずと授業力アップにもなると感じました。

6月議会—主な議案と上村和子の賛否

番号	件名	議決結果	上村賛否
第28号議案	市長等及び教育長の給与及び退職手当の特例に関する条例案	原案可決	○
<p>●市長の給料月額95万円を15%減らして80万7000円にするなど、市長、副市長、教育長の給料、期末手当、退職手当を減らす議案です。削減効果は4100万円。全員賛成で可決。上村も、削減額4100万円を市政に活かすよう注文をつけて、賛成しました。</p>			
第38号議案	平成23年度国立市一般会計補正予算(第2号)案	原案可決	×
<p>●住民基本台帳ネットワークシステム再構築支援委託料3180万円、都市計画道路3・4・10号線整備事業(道路用地買収費)1億4536万円、等を含む予算案です。修正案が2つ出されましたが、原案が賛成多数で可決されました。上村は反対。</p>			
議員提出第3号議案	学校の校舎・校庭等の放射能の暫定基準値20ミリシーベルト撤回と子どもの被曝を最小限にする施策を求める意見書案	原案可決	○
議員提出第4号議案	原子力発電に依存しないエネルギー政策への移行を求める意見書案	原案可決	○
陳情第6号	子どもの被曝を最小限にする施策を早急に行う事を求める陳情	採 択	採 択
陳情第7号	市内の子どもに関する施設周辺の放射線量の定期的測定等に関する陳情	採 択	採 択
陳情第8号	学校等の校舎・校庭等の放射能の暫定基準値20ミリシーベルト撤回と子どもの被曝を最小限にする施策を国に求める意見書提出に関する陳情	採 択	採 択

松下竜一さん七回忌に参加

松下センセが生きていたら
何て言うだろう？

参加した方々が異口同音に口にした言葉でした



6月4〜5日、大分県中津市で開かれた松下竜一さんの七回忌に参加しました。

1972年12月、松下竜一さんは、まだ原子力発電所の問題が浮上してない時代、豊かな海辺を残したいと豊前火力発電所の建設に反対の声をあげました。

周りからは、「地域の仕事はどうする?」「建設しないと電力危機があとづれる」「民衆の敵だ」「豆腐屋で電気を使ってるじゃないか(松下さんはその頃豆腐屋さんでした)」と批判を受けたそうです。

その中で、根本的な生き方にまで踏み込まないといけない、これ以上電力はいらないという思いで、「暗闇の思想」という本を出版します。

その翌年、発電所を建てないでという裁判を起しますが、弁護士に相手にされないなか、本人訴訟という形の裁判でした。日本で初めてといわれる環境権裁判です。その裁判の直後に第一次石油

ショックがおき、節約を訴えた松下さんはこれで裁判に勝つと思っただけです。ところが「節電を」の掛け声のもと、銀座のイルミネーションも消え、薄暗い状況がどんどん進行する中で、なんと世論は、「これだから電力だけは確保しなければ」という方向に雪崩を打つように流れていったそうです。そして日本は急速に原発へとシフトしていきました。

なんとまあ、今の状況と酷似していることか。原発はもういらぬという声は、もつとゆっくり自然と共生できるペースで生きたいとの声でもあるのだという思いで、今、再び、松下竜一さんの『暗闇の思想』をみんなで見たいと思ひ、左記の通り読書会を行います。

8月31日午後7〜9時
くにたち公民館3階
主催 国立のまちの問題を考える会

豊津町は日本における社会主義の発祥地。景勝地に建つ歌碑2つ、今の時代にピッタリの歌ですと案内していただきました。本当にその通りだと深く心に刻みましました。
「馬鹿にはされるが真実を語るものがもつと多くなる」といい(葉山芳樹の歌碑 写真)
「不遜なれば未来のことごとく失う」(鶴田知也の歌碑)

▼現在の防災計画に女性の視点が入っていないことの問題。

▼高齢者だけではなく、ひとり暮らしの若い女性も多い。その人たちの声を聞いているか。

▼3・11の影響で立川断層の危険性が増したとの報道があるが、この点の確認。

立川断層は国立市内では、矢川緑地↓六小↓郷土資料館↓下水道処理場にわたって走っています。

国の調査では向こう30年間で直下型の大きな地震が起きる確率が0.5〜2%であったものが少し高まったとのこと。

現状の市の防災計画では、直下型は想定しておらず、地震の規模も震度6弱です。今のところ都も

見直す予定がないので、国立市も立川断層直下型地震が起きた場合を想定しての計画の見直しは行わないとのことですが、市民への的確な情報提供は必要と考えます。

▼市では、これから200万円かけて要配慮者避難支援のモデルプランをつくりまします。

9月議会の一般質問で災害弱者への支援体制について質問します

これは、モデル地域を定め、災害時にその地域内の一人では逃げることができない方々全てを把握し、万が一の場合、その方々のところに速やかに民生委員や自主防災組織やボランティアなどがかけつけられることができるように、まずは当事者の自己申告に基づき、台帳

貨などの「お届け隊」。

被災地支援活動に参加



7月7〜11日、宮城県石巻市の被災地支援活動に参加しました。
初日は仮設住宅や半壊の家で暮らす方々の現状や要望を聞き取る「聞きとり隊」活動、2日目は鉄工所の「泥出し隊」(写真)、3日目は、仮設住宅への米、野菜、トイレツトペーパー、はえたたき、衣料、雑

知人の職場の関係の方々のおかげで石巻市日本共産党ボランティアセンターにお世話になり、被災地の現状も見せていただきました。貴重な支援活動に参加できました。感謝でいっぱいです。
「東京から来たの？暑い中、お疲れ様。ありがたいこと。でもあなた方と私たちは違うものね。どうしてこんな人生になったのか、家も家族も失い、どうしたらいいか。帰るところもなく、私たちはここにいるよ。りしようがない」と、仮設住宅で話して下さった高齢女性の目に浮かんだ涙が忘れられません。

毎年恒例、無所属女性議員と視察



13日は災害発生時の女性の視点での支援について、兵庫県立男女共同参画センター(写真)と、ウイメンズネット神戸の正井礼子さんのお話しを伺いました。
14日は京都テルサで財政の学習とパソナルサポートセンターを見学。15日は近江八幡市の菜の花プロジェクトを見学。17日は和歌山県紀伊田辺市の若者サポートセンターの見学でした。